

東北新報

年報一紙一円
半年報一紙五角
三ヶ月報一紙二角五分
日刊一紙一円
石巻支店 電話一〇〇
仙台支店 電話二〇〇
青森支店 電話三〇〇
秋田支店 電話四〇〇
山形支店 電話五〇〇
福島支店 電話六〇〇
茨城支店 電話七〇〇
栃木支店 電話八〇〇
群馬支店 電話九〇〇
新報社 電話一〇〇〇

平小線より商港の 實現は先にすべきだ

國家經濟の建直しに籍口し 地方産業を無視するは忍びない

慶報—小名濱商港修築中止として
問題は産業の振興並に地方
福利開發を主眼とせる縣の
諸計劃の前途に一大暗影を
投じ
縣民の 心裡に多大の
衝動を興へたが殊に地元石
城郡地方に於ては同港の修
築中止は直接にその生存權
を脅かされる重大問題なる
ため決死の覺悟を以て政府
當局及び縣にこれが復活運
動を試みたが安達内相の態
度は頗る頑強なるものあり
此處
一兩年 中には到底復
活の望みが無くなつた、め
地方民はこぞつて現内閣の
縮減政策に怨嗟の聲を放す
『民政黨内閣下にあつては
到底我れ等の希望實現する
事か出来ない』といふ空氣
が漸次濃厚になり爲めに民
政黨の地盤は早くも動搖の
兆を示して來たので縣支部
並に
同部會 は大狼狽し種
々籌策を考究した結果御
用紙編毎紙に『政府の眞意』

其の施行を
中止し ながら漸く測
量が終つたばかりの平小鐵
道を先にするといふ事にな
ればそれこそ前後矛盾自家
ごう着も亦甚だしいもので
政府を口にする國家經濟の
建直しなどは全く痴人の夢
を語ると同様半文錢價値な
きのみならず緊縮の羊頭を
掲げて國民を欺き黨勢擴張
の狗肉を賣るのそしは免れ
難いから幾ら選挙の
神様でも斯くの如き
暴挙は敢へてしないものと
思はれるが今から百歩を
譲つて小名濱商港修築と平
小鐵道がいつれが先にすべ
きかを討議すれば
第一その工費に於て小名
濱商港に對する國庫負擔
總額は百七十八萬圓に過
ざるに對し平小鐵道の
敷設は約三百五十萬圓を
要するから既に其の金額
の上に於て大きな懸隔が
あり又是れを利用方面か
ら見れば小名濱商港が完
成されてこそ始めて平小
鐵道の使命も完全するわ

である
然るにかゝる見易い道理を
措いて既に着工せる小名濱
商港修築を中止し不急の平
小
鐵道を先にするな
は全く本末の轉倒も甚だし
いものと世人の嘲笑を買つ
てゐる
郡体育大會は
來月廿九日
聲中グラントで
石城郡に於ける神宮競技出
場選手豫選體育大會は來
八月二十九日聲中校庭で開
催される事となつたが平町
に於ける町民體育大會も種
々の都合で郡體育大會前の
二十五日頃開催すると

錫の土地を
無斷で賣却
トんでもない叔父
上遠野村字上遠野齋藤福松
(五〇)は同村赤根五太郎(五
二)にオヒの齋藤作間の所有
地二千圓分を世話して賣渡
すと詐稱して同人から内金
二百圓を詐取し内金百圓を
消費し十六日赤根から植田
署に告訴され目下同署の取
調を受けてゐる
一人當り
六石三斗餘
昨日の水道使用高
平町二萬七千町民が昨十六
日に使用した水量は約十七
萬石で本年のレコードを作
つたが一人當りに見ると六
石三斗餘に當ると
青年の軍艦見學 平町白
銀町青年團では十八日午前
六時五十九分平驛發の列車
で小名濱町に至り軍艦五十
社會員衆黨石城支部では明
十八日午後六時から聚樂館
に於て議會解散要求の大演
説會を開催するが本部から
も辯士特派される筈で盛會
を豫想されてゐる

武之助助罪
高久村荷馬車挽業鈴木武之
助(四二)は同村い師鈴木木
五郎(五六)に乞食の婿と言
はれたに憤慨して毆打全治
八十日を要する重傷を負は
せ平區裁判所より罰金八十
圓を申渡され不服として控
訴中であつたが武之助は控
訴を取り下げ服罪した
石島商會清遊 平町白銀
町石島商會では來る二十一
日例年の如く關係者二百名
を招待四倉海濱で清遊を試
みる
強姦事件の檢證 石城郡
湯本町入山炭礦長屋居住の
佐藤長吉(二〇)にかゝる強
姦事件の實地檢證の爲め中
谷豫審判事は平署若林警部
補と共に十七日同に赴いた
仙臺卓球の
大チーム
二十八日來平
仙臺市に於ける卓球界の猛
者仙臺市オービー俱樂部で
は來る二十八日平町に遠征
常磐銀行樓上でオービー
大接戦を試みる事となつた
が非常に盛會を豫想されて
ゐる因に來平する選手は左
の如し
仙臺卓球協會長小林浩
氏 鑛山局星惣吉 市電
近江秀彦 河北記者菅原
武平 逓信局坂東二郎
七七菅原直三 師範山田
儀左衛門外三名
筆洗ふ前に

一九二七年の或る人
の日記を公開する。
一月十二日(水曜)
風なく空は晴れて限
りなき薄紫いろに彩
られてゐる。
妻に呼び起さる。
坑夫組合入山支部から細
田氏來訪して、昨日の交
渉頭末を報告あり。
事態容易ならず、暗雲低
迷しつゝ全山をおふ。望
澤君を帶同して湯本町に
趣く、支部に入れば三五
の 勤者は放言して會社
を罵倒してゐる。
能くは 傾向だと思ひな
がら流してゐると、本
部から高梨君が來て糾制
するといふのでその儘か
へりながら屋根看板を寄
附して平町へ、
平銀行頭取室にて、高岡
木村、新田目諸氏へ崎
頭取を加へたので、勞働
運動とは全然外な空氣に
浸つて、ムラ／＼と反抗
したく／＼つた。
一ツ二ツ皮肉な言葉を投
げてかへつた。
夜〇〇から二人訪問あり
若い新聞記者諸君三氏も
來る。
入山に爭議起るべし、高
梨、田村二君の統制と指
導とは必ず全山をあやま
るべしと〇〇部に警告す
静かに讀み、靜かに眠る

窮乏その局に達した
水不足の湯本町民
水の奪ひ合は夜中迄
日中は一滴の水もない有様

毎日九十度からの炎天續きのため石城地方に於ては早
くも飲料水の不足を告げるに至つたが就中湯本町の如
きは平常に於てすら飲料水の不足を來たしてゐる事
て昨今は三箇の給水バツクがカラ／＼に乾上り一萬ら
かくの町民は日中は一てきの水にもありつけぬ始末で
窮乏その極に達してゐるそれが爲めに夜といはず夜中
こいはずバツクより水をくみ出さんとする群衆はあだ
かもウエた狼の群が一匹の子兎をさらへて奪ひ合ふが
如き悲惨な状態を現出してゐるので萬一の事あつては
ご平署では警戒してゐるが此の天氣が當分つゞくとす
れば大問題を惹起する恐れあるものとみられてゐる

体温
寒暖計 電話一〇〇番

故北白川宮能久親王

本郡の御遺蹟 (七)

第三王子小松侯を迎へて

故陸軍大將大勳位北白川宮能久親王殿下の第三王子にまします小松侯爵には、記憶未だ新たな明治戊辰に圖らず、東奥に與に御かんか給ひし父君殿下が、本郡に御三泊遊ばされし時の御史蹟を探るべく、來る十八日御來町の由に付、本社は茲に本郡の光榮を紀念し奉りたく、豫ねて殿下の御遺せき研究家にして昨年町長及び泉村長等に其の顯彰方法を献言したる諸根柢一氏に乞ひて、本文の寄稿を得たる。對し深厚の意を表するものである。

勿來生 謹記

日光宮御旅館へ老公御とを安藝守に願ひ出でたに機嫌伺ひとして御菓子一折よつて直ちに嘉納し給はら獻上拜えつ後御附屬鈴木安れた。而して其の前夜飯野守氏より我が服部庄太左氏の安藝守に申して曰く衛門氏へ手續を求め急據の「畏れながら宮の拙宅に御御出發にて御旅費其の品々宿泊給へる曠古の紀念とし缺乏の旨内談あり、服部氏にて御染筆の一葉たりとも賜より老公並執政へ具申し老はらば家門の光榮之に過ぎ公より金五百兩外二百兩及す」云々と御染筆拜賜の懇び刀劍衣類若干を献納相成訴に及びしが、安藝守「此もたる由傳聞する。」

御附屬人名は左の如し
鈴木安藝守 羽瀨彦太郎 云々と返信あり其の代り
依田策江 羽倉綱太郎 後日の證として自ら認め
堀江吉之助 赤崎安二郎 飯野氏に下されたる書札
大久保與一 市川小次郎 次々たる如きもの今同家に藏す
山口朴郎 天野雲平
大岩正助 村上副藏 一、今般御泊に付而者ご用
本馬勝五郎 山口瀧五郎 向別格の次第も有之候に
石川益太郎 菅野喜三郎 付ご染筆之品頂戴致し度
山上松三郎 御願之趣及言上候
いづれ彼地にご到着の上
追而可下遺候爲其如件
辰月晦日
日光ご門主ご内
鈴木安藝守
飯野磯之進殿

自轉車 福島縣平町四丁目
自動自轉車 卸 山光堂
附屬品 電話五五〇番

●此の際特に勉強仕り候
本社社員二名 至急募集

▼開業一週年記念!!!
◎ラヂオも生れて五年

機械の精密 漸くにして完備した
良品廉價が 記念特賣

- 三球 (取附共) 金六十圓
 - 同高級品 同 金六十五圓ヨリ
 - 四球 同 金七十圓
 - 同高級品 同 金七十五圓ヨリ
 - 五球 同 金八十圓
 - 同高級品 同 金百圓ヨリ
- 電話にて御用命下さい早速取附に伺ひます
ラヂオ組立 福島縣平町南町二六
部品 各種電機器具
種電池販賣
常磐ラヂオ商會
電話五三三番

洋食 平町踏花町
小宴會歡迎
美味で 評判の 山手會堂
電話四六〇番

御酒は越後名産
飲むなら銘酒 寶山
粕取焼酎 味噌醬油 錦屋酒店
平町土橋二八 山野邊七郎
電話呼六六二番

夏の單衣は 品柄よく...

三井吳服店
電話三八番 七五一番

夏ののみもの
アイスクリーム ミルクケーキ
ソーダ水 其の他各飲料水

氷 水 始めました
一ツでも配達致します

みだ い屋
平町二丁目 電話三一九番

氷 水 始めました
一ツでも配達致します
電話七五七へお掛け下さい
平白銀町 丸山雜貨店

▽是非必要な夏の家庭用品
夏屏風 すだれ 食卓覆 煙草盆
團扇差 團扇置 蠅ごり 鉢ふた
おヒツふた 蚊帳 釣手 コツプ臺
水菓子入
御散歩がてら是非お越し下さい
平町一丁目 和久井漆器店
電話四〇五番

夏 來る...

最新編 柄 がお澤山
ました...お注文を願ひます
既製も各種澤山に取り揃へて御来店をお待
ちして居ります是非御覽を願ひます
平町一丁目大通り
各種洋服裁縫
各高級既製品
ヒツジヤ洋服店
電話六一三番

夏帽子と...ワイシャツ
玉屋洋品店
平町田町通り 電話六五六番

氷水開業廣告
弊店事務清造販賣を開業以來各位の特別なる御引立を蒙り候段厚く御禮申上候
夏季中は蒲鉾製造を休み水販賣に従事する事と相成申候につき何卒御用命御引立の程願上候
平町一丁目 藤寅

あづきアイス 電話百四十一番
アイスクリーム ミルクケーキ
其他動力應用清涼飲料水
◎出前は迅速に致します御用命の程を
おなじみの 昭和タクシーを
おすすねないで下さい
電話はお好きな三四三番
平 驛 前